

復活節
説教

復活への望み

＜マルコによる福音書16:1～8＞

朱文洪 牧師（小倉教会）



死は突然訪ねて来ます。遺族からの連絡で葬儀が行われます。ご臨終式、納棺式、（仮前夜式）、前夜式、告別式、火葬前式、納骨式。カイロスの時を死者、遺族と向き合い一粒の骨と化した故人と共に祈り、帰宅するとしばらく寝込みます。葬儀の疲れより故人と遺族に対する配慮が十分いきとどいたか自問自答に苛まれるからです。

死は神秘の次元です。マルコ福音書記者も墓での女性たちの証言で本文を終えます。以降は後のキリスト信仰共同体が付け加えたものとされています。初代キリスト信徒は激しい迫害や追い詰められた危機の中で復活の主との出会いをリアルに語り合いお互い励まし合いました。使徒パウロはその出来事を福音の土台として大切に扱います。（第1コリント15章）パウロ自身はイエスの復活を否定した側でしたが、光の中で現れた存在との出会いで復活の主への信仰に帰依しました。

福音書記者やパウロは復活に基づいてイエスの受難と十字架の死を深く見つめ直し、イエス・キリスト信仰に至ったのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネ3:16）復活のイエスに触れられた証を見ますと、時空を超え、識別が出来ない姿を取っています。初代教会から続く福音はイエス・キリストの十字架の死、復活と再臨の信仰の上に形成されました。

小倉教会に赴任して多くの出会いに恵まれましたが、着任直前死去された加藤慶二さん（1942～1993年）は追悼文集を通して出会い、今なお感動しています。彼は司法書士職の傍ら在日韓国・朝鮮人への指紋押捺制度に憤慨し隣教会の崔昌華牧師の人権獲得運動を支えた日本基督教団の信徒でした。51歳頃、がんが見つかって余命数か月と宣告された日に書き留めた遺書が文集にありました。

「わたしの遺骨を家族のお墓ではなく在日朝鮮人の墓である玄海灘に散骨していただきたいです。そこで眠っている名もない尹東柱たちに謝罪を続けたいです。終わりの日に彼（彼女）らと手を結んで再臨の主を迎えたいです。」その続きに尹東柱詩人の「序詩」―「天を仰ぎ一点の恥じ無き事を―」が綴られていました。

れていました。

北九州地域は強制労働の現場が多く、韓国からの「在日同胞苦難の現場研修」―和解と平和の旅―の企画で神学生や長老、牧師の研修会が度々あります。その度、加藤さんを証言すると皆こころが熱くなるのです。私も思わず涙が出、いつも新鮮な交わりをさせて頂いています。

当教会の納骨堂には炭鉱犠牲者の遺骨が85柱（14柱は不明者）と信徒の遺骨が45柱安置されています。納骨堂（永生園）建立を呼び掛け、お寺から遺骨157柱を引き取って丁寧に収めた崔昌華牧師。その隣にはジョン・マッキントシュ宣教師の遺骨（分骨）があります。40年間、在日大韓信仰共同体に仕えて、晩年7年間を当教会協力牧師と西南KCC総幹事として奉仕されました。65歳、定年で帰国しますが3か月後、天に召されました。彼の希望で永生園にも分骨し納められました。「在日教会の友に仕えた40年。これからもその傍らで共に生きたい。特に異国の炭鉱地下で息絶えた兄弟、地上で小さくされた者を大きい存在として迎える主。その大切な友人の隣にいらしていただく幸いよ」と、彼の声なき声が聞こえるようです。そのジョン・マッキントシュ宣教師と崔昌華牧師に影響を受けた小林省三さん。日本YMCAで50年間働き最後の任地が小倉であった彼の遺骨（分骨）も隣に安置されています。このように、永生園は生死を超えた和解と希望の場として訪ねてくる人に大いなる命を吹き込んでくれます。崔昌華牧師は64歳で召天しますが、牧会日誌や資料を見る限り個人の趣味や楽しみの時間は殆どなかったと思われます。地上の旅を福音宣教・御国が来ますようにと人権・社会正義・少数者差別政策に抗うことに没頭した生涯でした。恐れず迷わず走るべき道を走った伝道者でした。

内村鑑三（1861～1930）が最愛の娘・ルツの18歳で病死した葬儀で「ルツ万歳!」と叫んだエピソードは有名です。彼は、悲しみのどん底で復活の命を見たのです。しかし、周囲の人々は不思議に思ったことでしょう。

21世紀の疫病・新型コロナウイルスが世界を震撼させている危険・危機の時に迎える復活節が復活の命を信じる人を励まし、恐れを追い出し、新しい命へと導く、恩寵の時となりますように祈ります。

公 告

在日大韓基督教会熊本教会は2018年9月9日臨時公同議会を開催し、現在地において会堂と牧師館の建て替えを決定した。

総 予 算：6,000万円

木造2階建（1階礼拝堂・2階牧師館、建坪約70坪）

工事期間：2018年10月～2019年4月

在日大韓基督教会熊本教会
代表役員 金聖孝

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

●B6版変型・1483ページ

●価格：2,500円（消費税・送料込み）

※お求めは総会事務所へ

海外韓国人教会の教育と牧会協議会 第12回メルボルン大会開催



私たちの総会が会員教団として参加し、世界に散らばっているディアスポラ韓国人教会の次世代の教育と牧会を重点に分かち合い共有している、「海外韓人教会の教育と牧会協議会」の第12回大会が、去る2020年2月18日～21日、メルボルンのオーストラリア合同教会のハンビツ教会（張基洙牧師）で、40名余りが参加する中で開催され、KCCJからは総会長の趙永哲牧師、教育委員長の高明均牧師をはじめ14名が参加した。

「ディアスポラ、和解と回復のために残された者たち」（ヨエル2：32、第IIコリント5：18～19）という主題で、John G. Flett 牧師（Pilgrim Theological College/University of Divinity教授）を講師に招き、4項目の発題を通して今日直面している以下の課題を分かち合った。発題は、①海外韓国人教会の教育と牧会協議会の始まりから（PCUSA崔勲ジン牧師）、②次世代への信仰継承（UCA2世 楊勲榮牧師）、③女性のリーダーシップ役割（KCCJ石橋真理恵伝道師）、④Silver Ministry（KCCJ鄭然元牧師）。

また、特別講演として「オーストラリア教会の朝鮮宣教の初期物語」をUCAの楊聖大牧師よりあり、130年前オーストラリアの宣教師による朝鮮伝道、特に釜山、慶尚南道を中心に宣教された宣教師らの足跡を学びつつ、彼らの墓を訪問した。水曜夕礼拝はメルボルン地域の韓国人教会合同礼拝において、総会長の趙永哲牧師が説教された。

2年ごとに地域を変えて開かれる次回第13回大会は、2022年4月アメリカ・オレゴン州のポートランドで行うことになった。

西部女性会 会長会議・研修会を開催 “主の導きにより始めた親子カフェ”主題で

西部地方教会女性連合会の「会長会議・研修会」が1月30日（木）午前11時より武庫川教会において開催され25名（5教会）が参加した。兪貞恵会長の祈りと司会により会長会議を行なった。各教会女性会会長より年間活動、女性会の現状と祈りの課題の報告があった。各教会女性会は人数、状況は違っても教会において大切な役割を担っており、神様に栄光を捧げるために共に祈り、奉仕していることがわかった。姫路教会と岡山教会、不参加教会のために心を合わせて共に祈った。その後、書記による2019年度の活動報告があった。昼食は武庫川教会女性会の心のこもったお料理をいただいた。

午後の時間は講師に川西教会の坂口千恵子姉妹を迎え、“主の導きにより始めた親子カフェ”のテーマで研修会を開催した。神様のみこえに従い、家庭を開放して始まったハッピースクール



が現在は川西教会の主日学校の子どもと、ひとり親家庭の子どもを対象に月1回開催されていて伝道の場になっているなどの証を聞いた。恵み豊かな時間であった。

（報告：尹豊子）

全国女性会

第21回聖書セミナー開催 「主に接ぎ木された者として」主題で

全国教会女性連合会教育局・西南地方教会女性連合会共催で第21回聖書セミナーが2020年2月13日（木）～15日（土）まで福岡中央教会にて開催された。参加は72名だった。

セミナー講師として高見澤栄子牧師を迎え、「主に接ぎ木された者として～新しい時代を拓く教会女性～」という主題・副題で3回の講演があった。聖書をパノラマ的に展望し、創世記から黙示録の救済の歴史とその中の女性の位置・働きを学び、多くの気づきが与えられた。

二日目には志賀島温泉にて親睦会を行い、笑いと共に満ち溢れた時間であった。三日目は高見澤牧師が代表を務める「モンゴルキッズの家」の紹介があり、モンゴルの実状、マンホールチルドレンについて学ぶことができた。

開会礼拝説教は辛治善牧師（福岡中央教会）「神様がお遣いになる人」、閉会礼拝は金必順牧師（歴代総務）「これからは、もう」という題目で説教を受け、朝の祈禱会では、西南地方教会の紹介と祈禱課題を聞き共に祈り、最終日朝は金瑪瑛長老（福岡中央）の証があった。

参加者一人一人、また西南女性会の沢山の奉仕によって今回素晴らしい聖書セミナーとなった。心から感謝！（報告：金錦順教育局長）



新刊紹介

『未完の独立宣言』 —2・8朝鮮独立宣言から100年—

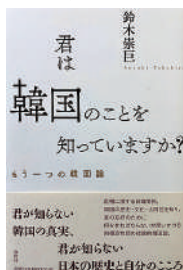
在日本韓国YMCAでは、2019年の2・8独立宣言100周年を記念して連続セミナーと国際シンポジウムを開催し、その内容を『未完の独立宣言 2・8朝鮮独立宣言から100年』にまとめ新教出版社より刊行した。東アジア史、キリスト教史、女性史、文学研究等、幅広い視点による検討から、宣言が今日の私たちに何を問うのかという現代的な考察まで、多彩な内容を一冊に込めた。韓日近代史を学び直すためにもぜひ一読いただきたい。



新刊紹介

『君は韓国のことを 知っていますか？』

在日韓国人の影響で教会に導かれて（名古屋教会）牧師の道を歩むようになった著者の鈴木崇巨牧師（スズキ・タカヒロ、日本基督教団引退）が、日本人が韓・日間の不幸な歴史を振り返りながら、韓国を正しく理解できるよう手助けする内容の単行本を出した。「もう一つの韓国論」という副題がついているこの本は、危機に瀕する韓日関係を嘆き、真の友好のために、日本人が知るべき韓半島侵略の恥ずべき歴史を明らかにし、韓国を本能的に差別し警戒する日本の態度と心の根底を探り、両国の歴史・文化・人間性に新たにスポットを当てることで、人間の罪性に端を発した嫌悪を超えていくための理解と優しい心を訴えている。この本は現在主日礼拝に出席している品川教会の姜章植牧師の翻訳により韓国版の出版が予定されている。





品川教会の昨日と今日

姜 章 植 牧師



東京の品川区の中心に位置している品川教会は1960年を教会創立の年に定め、60周年を迎えようとしているが、実は正確な創立年度は分らない。ある同胞の証言によれば1940年代に牧師社宅を兼ねた教会礼拝堂2階建の木造の建物があったが、1945年に連合軍の東京空襲で爆撃を受けて教会がなくなったと言う。そのため、いつから東京南部の中心地で同胞を対象にした宣教活動が始まったのか、その活動の痕跡は知る由もない。しかし、その時この地に蒔かれた福音の種は、20年余りの歳月が流れた後3～4人の在日信者の家庭礼拝で始まり、燃えさしの切り株に新芽が出た。その新芽は苦難の歳月を経て、大きく成長し、40年間に聖殿のない荒れ野を通して、さまざまな活動ができる本教会の建物が献堂された。このような実を結ぶまでには1967年から3～4人だった本教会を23年間仕えた慶恵重名誉牧師（2001年に名誉牧師推戴）の献身と熱情とビジョンが大きな役割を果たした。

本教会は40年以上を、東京南部の品川区の諸地域を転々としたが、19年前から大井町に新しい教会の建物を献堂して定着した。しかし、本教会は教会の自立と生存の危機を迎えてしまった。在日同胞中心の教会として始まって成長してきたこの地域は、今や在日の面影もなく、少数の在日が住みニューカマーの流入も期待できない地域になっている。さらに地域住民のニーズと情緒にも多くの変化があり、新しい宣教的課題を抱えるようになった。このような時代的変化、地域的変化の流れの中でもここに教会を建てられた神様ののみ旨に従って、神を畏れ礼拝し、荒れた地を歩む信徒たちと教会の垣根外の地域住民に恵みの泉が溢れる神様の家族として福音伝道を目指している。

そのために私たちは、第1に、私たちは日本人、韓国人、そして誰でもともに信仰に生きる開かれた共同体を目指し、第2に、地域に優しい共同体として仕えることで、地域に信頼と愛されるキリスト者として生きることを目的にする。これを基に教会やこの地域に留まらず、日本国内と世界宣教に向けた小さな一歩を踏み出そうと努力している。

具体的には、主日には第1部日本語の礼拝、第2部韓国語の礼拝をしながら、自分の母国語で礼拝し、神様の御言葉が宣言されるようにしている。聖書の勉強と教会学校礼拝も、韓国語、日本語2ヶ国語で進めている。在日韓国人も諸外国人もごく少数が居住する地域であるため、普段は日本語を中心に活動している。

地域のために、子供食堂（月1回）、地域住民を招待する音楽会、女性会主管の慈善バザー、そして、英語と韓国語、日本語を学ぶことができる文化教室を通じて、教会の敷居を下げている。

世界に向けては、青少年を海外の宣教地に2度にわたり訪

問研修に遣わして、世界の貧困子供救護活動をする団体と交流し、神の国に対するビジョンを抱いて祈禱をしながら小さなことであっても真心中で協力参加できる機会を設けている。

こども食堂「温もり」の運営

3年前に地域の外国人の子供たちに日本語学習支援をするある日本人高齢者から一つの提案を受けた。"親が仕事の関係で子どもへの世話ができなくて、学習と食生活に問題が多い外国人子どもと、地域の貧しい家庭の子どもたちのために、教会が子ども食堂をやってほしい"という内容だった。私たちはその提案を拒むことができず悩んだ。教会員の子供にもそのような状況に陥っている子供がいた。しかし、財政と奉仕者、それ以外の実際的な問題があって、躊躇せざるをえなかった。だが、教会員の一部の方々はこの提案を受けてすぐ行動しようとし、そして教会の外から多くの励ましと援助があって、3年前から欠かさず月1回子ども食堂を開いている。

オリックス宮内財団からは2回にわたって67万円の財政を、そして区役所や地域隣人から多くの支援と寄付があり、少ないボランティアの問題は、地域の住民の協力で満たされた。神様が喜ばれる働きに取り組んでいけば、必要は必ず満たされていくということを体験できたと実感した。

品川区は中産層、あるいは富裕層地域だと言われるが、見え隠れてしている貧困の子どもが意外に多い。物質的貧困よりも情緒的な貧困で孤独と辛い人生を送っている住民も、意外に多いという事が分かるようになる。先着順で子ども50円、大人100円で60人分の夕食を提供するが、開いて1時間30分ほどで、売り切れになってしまう。子どもや高齢者、母子家庭が主に訪れるが、子どものために食事の準備も困難な共働き主婦もやってくる。

3年間の活動を通して、現代社会の問題は、一食の食事ができない経済的な貧困の問題に限られているのではなく、愛が冷めているこの時代を生きている孤独と痛みを持った現代人の情緒的な問題、心の貧困の問題がより大きな問題であることに気付く。

1ヶ月に1度だが、その日は地域の住民で教会が大騒ぎになる。一人暮らしで一人夕食をとる地域住民と高齢者は、可愛い子どもたちの姿を見て微笑み、子どもたちは食事を終えてからも帰らず、教会の幼稚部礼拝室に駆け込んで楽しく飛び回る。その日の夕方、教会内外の情景を神様も見て微笑んでおられると信じる。



特別
報告

KCCJの祖国平和統一宣教に参加して

平和統一会議準備委員長 鄭 然 元 牧師

在日大韓基督教会（以下KCCJとする）が祖国の平和統一のために努め、宣教の課題として取り組むようになり、1981年10月第36回定期総会において社会委員会から「民族統一小委員会」が設置され、その以後1985年には特別委員会、1986年には名称を変更し、「南北宣教委員会」とし、1991年には「平和統一宣教委員会」とし、毎年8月2週目の主日にKCCJの全国教会が「平和統一主日」として行っている。

その時からKCCJにおいて祖国平和統一のために行った過程は以下である。

- ・1984年10月29日～11月2日、世界教会協議会（WCC）の国際委員会が主催する「北東アジアの平和と正義」協議会が御殿場の「東山荘」にて開催された。KCCJからは李仁夏牧師が参加した。朝鮮キリスト教連盟（以下KCFとする）不参加。
- ・1986年9月スイスのグリオンで行ったWCCの平和会議に南北のキリスト者が初めて会い、聖餐式を行った。
- ・1986年12月、日本NCC代表3名（隅谷三喜、中嶋正昭、前島宗甫）が初めて北朝鮮を訪問。
- ・1988年7月、「民族統一に関するKCCJの宣言」発表。この宣言文の8番に「KCCJは祖国の統一と平和のために本国（韓国）教会と日本の教会および世界教会と連帯しつつ対話を続ける」と記される。
- ・1989年7月29日～8月20日、KCCJが初めて北朝鮮訪問。金桂昊牧師、李大京牧師、姜栄一牧師らが訪問。
- ・1989年9月29日～10月5日、KCF代表初めて日本を訪れる。日本NCC請聘で韓国のNCCなどと協議会を行う。
- ・1990年7月10～13日、第1回「祖国の平和統一と宣教に関する基督者東京会議」開催。
場所：在日本韓国YMCA、100名参席、KCFからは5名参席。
- ・1990年12月、第3回グリオン会議にKCCJから李大京牧師と金安弘総務が参席。
- ・1991年7月9～12日、第2回「祖国の平和統一と宣教に関する基督者東京会議」開催。
場所：在日本韓国YMCA、89名参席、KCFからは4名参席。
- ・1991年7月22日～8月1日、第2回北朝鮮訪問、3名
- ・1992年10月20～22日、第3回「祖国の平和統一と宣教に関する基督者東京会議」開催。
場所：東山荘、95名参席、KCF5名参席
- ・1993年4月30日～5月11日、第3回北朝鮮訪問、6名、自転車100台寄贈。
- ・1994年5月31日～6月2日、第4回「祖国の平和統一と宣教に関する基督者東京会議」開催。場所：在日本韓国YMCA、約100名参席、KCFからは5名参席。
- ・1995年10月9日、京都南部教会で開催されてKCCJ第43回定期総会にKCF委員長 康永燮牧師が出席。共同聖餐式の司式を務める。
- ・1996年6月5～7日、第5回「祖国の平和統一と宣教に関する基督者東京会議」開催。場所：東京教会、120名参席、KCFからは5名参席。
- ・1998年10月8～10日、第6回「祖国の平和統一と宣教に関する基督者大阪会議」開催。場所：大阪教会、約145名参席、KCFからは4名参席。
- ・1999年11月27～30日、日本キリスト教会（CCJ）代表団の北朝鮮訪問、28日ボンズ教会の主日礼拝に出席し、大会議長の久野牧師が謝罪文を朗読。
- ・2000年12月12～15日、第7回「祖国の平和統一と宣教に関する基督者福岡会議」開催。
場所：福岡教会、160名参席、KCFからは4名参席。
- ・2002年5月18～25日、第4回 北朝鮮訪問、9名。
- ・2002年7月22～24日、第8回「祖国の平和統一と宣教に関する基督者東京会議」開催。
場所：東山荘、約103名参席、KCFからは5名参席。
- ・2014年6月16～20日、東山荘会議30周年EFK会議（スイスのジュネーブ）、初めKCF新委員長の康明哲牧師が参席。金柄鎬総幹事がKCCJの平和統一主日献金伝達。
- ・2016年11月15～17日、EFK会議（香港）委員長の康明哲牧師参席。金柄鎬総幹事がKCCJの平和統一主日献金伝達。
- ・その他にも全国教会女性連合会から北朝鮮に練炭を送る活動もしてきた。
- ・2019年7月26日～8月2日、第5回北朝鮮訪問、KCCJ金鐘賢総会長他鄭然元宣教委員長、李炫知全国女性会長、金柄浩総幹事、NCCJから4名。KCCJの平和統一主日献金伝達。



1980年代、1990年代、南北が自由に往来出来なかった時、私たちKCCJは南北のキリスト者が出会い、平和的な統一のために語り合って祈る場を提供して大きな役割を果たしたが、2000年代に入って南北キリスト者の往来がある程度可能になってからはその役割の一線から下がっていた。しかし、その時から18年余り過ぎた今日の韓/朝鮮半島をめぐる状況は再び厳しい中で南北キリスト者の往来が途切れてしまった。

その故、KCCJは再び「祖国の平和統一と宣教に関するキリスト者東京会議」を主催して開催する計画を立てている。

- ・日程：2020年10月28日（水）17：00～30日（金）12：00、在日本韓国YMCA
- ・参加人数：約100名（韓国教会60名、日本教会10名、世界教会10名、KCCJ20名）
- ・内容：礼拝、聖餐式、主題講演、聖書研究、交流など。

「…彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」（旧約聖書ミカ書4：3）